



家庭読書について

現状・課題

☆24年度から「家庭読書の日」が、毎月実施になった。看板・のぼり旗の設置、標語の募集・掲示、園・学校のお便りなど、PR面でも様々な努力や工夫がなされ、いい方向にきている。今までの活動の継続を大事にしたい。

☆平成25年4月から2歳児を対象にした「セカンドブックプレゼント」が新たに始まる。ファーストブックから保育園入園までの間にも、継続した読み聞かせへの働きかけができるようになった。町図書館で行うことで、来館へのきっかけづくりにもなる。

☆「読書嫌い、取り組めない家庭」への働きかけについては、家庭生活を見直す視点を含めてさらに議論が必要。また、小学校高学年や中学生の家庭読書の位置づけが必ずしも明確でない。



図書館前の「のぼり旗」



家庭読書標語 優秀作品の掲示

今後に向けて

☆読書への興味を持たせるには、子どもの感性に訴える本の紹介や読書活動を提案するなど、読書の楽しさを伝えていくことが大事。家庭ではまず親自らが子どもに本を読む姿勢を見せることから始めたい。

☆下諏訪図書館の活用法をさらに広く考えていきたい。様々な文化・団体の交流の場、子どもの豊かな体験学習の場づくりになるよう期待したい。以下のような取組はどうか。

- 開館時間の工夫（園学校が月曜休みの日の開館など）
- 図書館、公民館、博物館と連携して講座を開講する
- 小学校入学時に学校図書館に加えて町図書館の利用法を勉強する。
- メディア問題のパンフレットや本をセカンドブックのプレゼントに加える。



メディアの問題について

現状

☆町内の調査によれば、平日にPCやTVを1時間以上使う子どもの割合は小学生で約50%、中学生では約60%を超える。これが休日になると2時間以上を超える子どもが小学生で半数近く、中学生では何と60%という結果になっている。

☆夜遅くまで起きている子が多い。特に保育園児の約20%が夜10時以降に就寝するという結果は、子どもの発達上大きな問題であると考えられる。小中学生の中にも極端に就寝時間の遅い子が多い。

今後に向けて

☆「メディア漬け」が子どもに与える影響について、親はもちろん小中高生を含めて広く町民に啓発する。

- メディアに関する講演会の開催、メディアをテーマに意見交換会や懇談会の実施、パンフレット等による啓発。乳幼児健診や園長・校長講話での啓発。産婦人科や小児科医からの啓発など、地域医療機関との連携。
- 親への早期啓発。例えば母子手帳配布時からの取組。

☆メディアをどう受け入れ、今後どのように上手に付き合っていくかを各家庭で話し合えるよう対応する。そのためにも多様化しているメディアの影響について、子育てに関わる大人の理解を深める機会が欲しい。

☆メディアから離れた「体験学習」「体験交流会」など、子どもが小さい時から楽しく体験のできる場づくりを提案する。 ☆家庭読書、体験活動と結び付けた「ノーメディアデー」の提案。

☆「家庭読書推進都市」「健やかな子育て宣言の町」など町をあげたスローガンや宣言づくりに取り組み。そのためには町の指導的な立場の人の理解がほしい。有識者が集まるイベントでこの問題を取り上げてもらいたい。

親子ふれあいのコミュニケーション推進に向けて家庭生活を考える

～社会教育委員会の活動紹介～

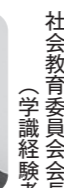
社会教育委員会では現在、家庭教育支援の取組で「家庭読書の推進」「メディア問題を中心とした子どもたちの家庭生活」について協議をしています。

社会教育委員の構成

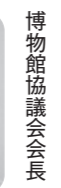
○委員は学校教育の関係者、公民館や図書館、体育館、博物館など社会教育施設の関係者、学識経験者、家庭教育の向上に関わる者など幅広い分野から任命されます。従って、様々な分野から住民の意向を吸い上げ、行政に反映させる「住民と行政をつなぐパイプ役」としての役割を担います。



矢澤進一さん



竹中知一さん



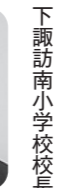
本山公之さん



前田栄一さん



曾根原正樹さん



古屋 治さん



宮坂直子さん



久保田みすずさん

社会教育委員会会長
(学識経験者)

博物館協議会会長

青少年健全育成協議会副会長

公民館運営審議会会長

スポーツ推進委員会副会長

図書館協議会会長

学識経験者

社会教育委員会の仕事

○社会教育委員会は社会教育（青少年および成人に対する組織的な教育活動）の振興のための施策を考え、教育長を通じて教育委員会に提案する仕事をしています。下諏訪町では、教育委員会から出された諮問に応じて会議を開き、時には関連する行事や取組に積極的に参加をして、協議・検討を進めています。集約した意見は答申書にまとめ教育委員会へ提出することで、町の教育行政に還元します。

平成24年度社会教育委員会活動

「公や地域が関わり、親子ふれあいによるコミュニケーションの推進に向けて、家庭内に望ましい読書環境を定着させていくための手立てはどうあったらよいか」

平成24年5月に教育長から上記の諮問を受けた当委員会では諮問に応えるために、「家庭読書の推進」を柱に据えて協議をスタートさせました。その中で理想的な読書環境を妨げているものとして「メディアの問題」があることに注目し、メディアを含めた家庭生活の在り方について協議をしてきました。年6回の委員会、教育委員との意見交換会、必要に応じて視察・研修に参加し、話し合ってきた内容は中間報告書にまとめて、平成25年3月末に教育長へ提出をしました。



社会教育委員会

今後の活動に向けて

中間報告を提出しましたが、今の私たちの目の前にはまだ問題解決の材料が並べられている段階です。来年の答申に向けて引き続きこのテーマについて協議検討をさせていただき、より良い施策を考えて提案していきたいです。また諮問テーマだけではなく、様々な団体のメンバーで構成されている当委員会の強みを生かして、各分野から町民の要望を吸い上げて行政や町の各界各方面へつなげていく「住民と行政を幅広くつなぐパイプ役」としても町の社会教育振興を広く支えていきたいと考えています。